

通路へ

— 通 路 —

*

かはたれどき、ここに、
日の灰色に、地下水の痕跡たちの
さざめき。

*

(日の灰色に、
地下水の痕跡たち
の--

まぎれもない
痕跡
の
構内へ
送りこまれて--。

草。
草、
きれぎれに書かれて。)

(From "ストレッタ"

By Paul Celan)

RECORDING NO.5 一通路一

Piece I 痕跡

Piece II 部屋

Piece III 通路

通路は 平面を貫き通り、平面のある部分を浮かび上がらせる。それと共に通路そのものも その部分を自らの断面とする事によって 逆に想起される(姿を与えられる)だろう。

それら断面は piece(=破片、断片)として
Piece I『痕跡』、Piece II『部屋』、Piece III『通路』と、
名付けられる。

Piece I『痕跡』

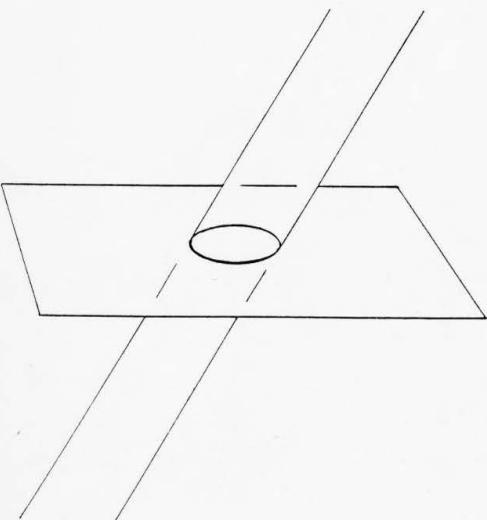
—思い出すこと 或いは 忘れること—

Piece II『部屋』

—語りゆくこと 或いは 沈黙—

Piece III『通路』

—書くこと 或いは 消えゆくこと—



セントラルヨーロッパの民族、カーブル族の頭部。頭部は
骨頭から、皮肉は頭部組織の内部で、骨頭の外側には
皮肉が接着する。骨頭は頭部の骨頭組織の外側に
位置する。頭部（頭部の頭部）は頭部の頭部
（頭部の頭部）である。頭部（頭部の頭部）
（頭部の頭部）は頭部（頭部の頭部）である。頭部（頭部の頭部）

Piece I 痕跡

アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。

Piece II 部屋

アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。

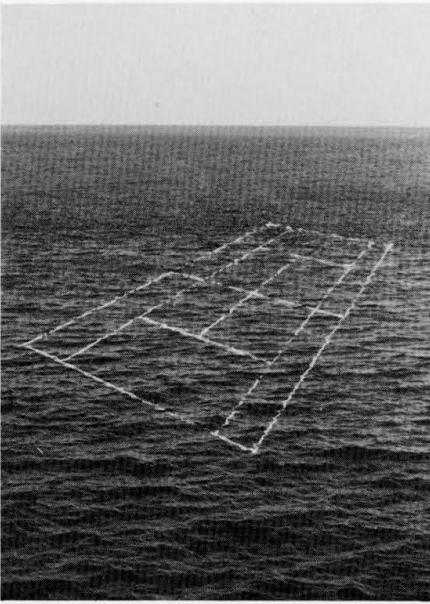
Piece III 通路



アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。
アーチ形の頭部。頭部の頭部の頭部。

Piece I 『痕跡』

－思い出すこと 或いは 忘れること－



・・・途切れ途切れに 消えゆくコートのライン

・・・薄れゆく 痕跡

・・・薄れゆく 記憶

<設置物>

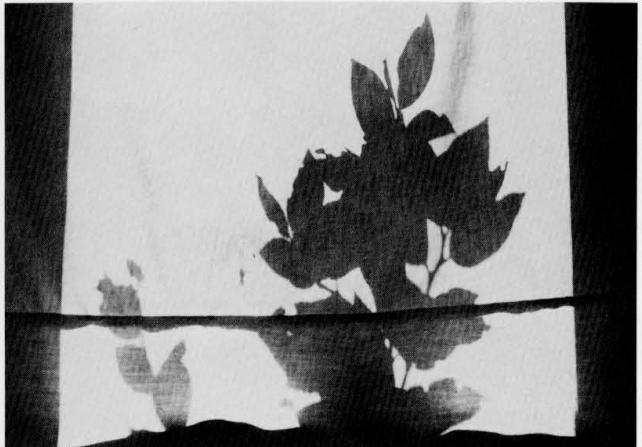
・R.4からの引用／痕跡・・・コートのライン(床面)
パネル(壁面・床面)

・記録パネル・・・nh.1 "THE COURT"、R.4 "THE
QUARTER FINAL"、R.5 "通路"
R.5の三箇所(Piece I , II , III)
(透明アクリル板、床面)

・Imaginary sample・・・標本箱内に写真etcと紙片
【R.4 , nh.1 , R.5 についてRECORDING MEMO 参照】

Piece II 『部屋』

-語りゆくこと 或いは 沈黙-



・・・思い出してほしいの・・・なにを？

・・・私が忘れてしまったことを。

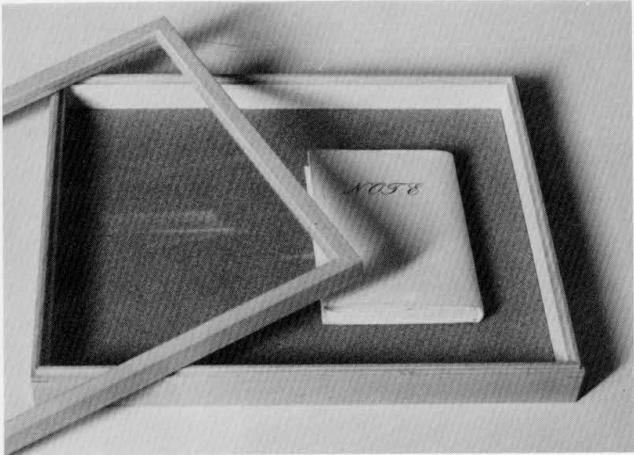
<設置物>

- ・声達がかわす会話・・・紙片(壁面)
- ・彼女が書き残したと思われるもの
 - ・・・紙片(部屋の片隅の丸テーブルの上に)
 - ・彼のノート・・・(長椅子横のテーブルの上に)



Piece III 『通路』

-書くこと 或いは 消えゆくこと-



・・・忘れるために書く？・・・

(しかし そのために

書き続けねばならないとしたら・・)

<設置物>

- piece (壁面)
- Note • • no.1 no.2
- File • • R.3 R.4 pre.R.5
(机上)

通路

- Note からの抜粋 -
(in Piece III)

1984.12.7.

通路 -

みおつくし / Court形成

Courtの形成・・・それは海面上に幾つかの「みおつくし」を投げうつことではないか？

* Court : 閉じられ、囲み込まれた場所。閉域。・・・テニスコート、中庭、路地裏、法廷、宮廷 etc.・・・
ここでは、R5court「通路」。更にR1~4courtのこと。

* 「みおつくし」：船に水路(水脈(みお))を知らせるために立てた杭、標識。

「みおつくし」・・・しかし、それが指示すような水路が、予めある訳ではない。むしろ、「みおつくし」が水路を作っていく、そのような「みおつくし」である。

「みおつくし」を前方に投げうちながら、それを目印として進みゆく船。一つの水路。

(あなたは、幾つかの杭を見る。しかし、それは杭ではない。それは「みおつくし」であり、「みおつくし」として一つの水路を呼び込むだろう。)

1985.1.8

通路 -

『断面』: Piece I , Piece II , Piece III を形づくる動き
の中で 『断面』(次第に形を現しゆく『断面』)によっ
て想起される -- 或いは その運動を促しゆく --
<通路>がある・・・(ある?)

それらの<通路>を たとえば それぞれ
<通路 α >, <通路 β >, <通路 γ >と名付けてみる。

<通路 α >: Piece I によって仮想される<通路>
表面へと延ばし広げられた通路・・・
(既にして 至るところ通路であり
従って
通路と言う必要もなく 通路と
言えもしないだろう ひとつの
場 のような・・・)

<通路 β >: Piece II によって仮想される<通路>
隙間であり『彼女』である通路・・・
(通路の消失 或いは 近づき得ぬ
あらかじめ失われてある通路)

<通路 γ >: Piece III によって仮想される<通路>
書き 書かれゆく 通路
痕跡化の 或いは 痕跡化されゆく?
(出口なく 終わりなき 通路)

Piece I - 思い出すこと 或いは 忘れること -
Piece II - 語りゆくこと 或いは 沈黙 -
Piece III - 書くこと 或いは 消えゆくこと -

1984.12.9

通路 -

白い通路

何処から 何処へ それは 続くのか？

いや・・・。

何処かへと向かう動きそのもの としての通路。

何処かへという目的は 既に失われており、
既に失われているものとしての『何処か』目的地で
あり、故に通路は 何処か(ここそこ、あちら
とこちら)を貫いてはいくが
何処かへと至ることは 決してないだろう。

白い通路

それは 幾多の場所を貫きながら ひとつの軌跡を
残すだろう。

ひとつの 仮想された、到達不能な何処かへ
と向かい続ける動き・・・

・・・或いは 仮想された中心を巡る動き
・・・白い通路が描き出す繭。

白い繭

もがしまれ、螺旋状の動きで死んでしましり。此處
は死んだが、死が付けてくることを「蟻が石」だと呼んで
いる。そのように死が石のことを。

1985.1.8.

通路 -

いくつかの通路がーー或いは 運動がーー
<通路 γ>によって見いだされる。

例えば それぞれのPieceが形づくられる中でー

・・・飛び石を あちらこちらととびはねる
少女(或いはシニフィアン) の動き

(通路 α)

ーとびはねるー跳び・飛び・薦・羽根・は
ねる・跳ねる・バネ・飛び火のようにーと
びひ【飛び火】(名・サ変自):1.火の粉が飛
ぶこと。飛んで他に燃え移ること。2.意外
な所にまで事件がおよぶこと。3.伝染性の
皮膚病。ーのように。

しかし「飛び石」とはーーとびいし【飛び石】(名):庭先な
どの通路に、とびとびに並べた石。ーであり 既に
あらかじめ定められた通路を前提としているのではない
か・・・

しかしながら 少女は「飛び石」などおかまいなしに とび
はねるだろう とびはねゆくことで 「飛び石」とされて
いく そのような「飛び石」の上を。

また

・・・仮想された不在の中心を 巡る動き
例えば 白い繭

(通路β)

—めぐる？ 周りに沿って？ 周りを
形づくりながら？ —いや 周りに
むしろ沿わされて —

そして

・・・そのように 姿を与える「通路」として姿を与える
姿を与えることで 見失い
見失い続ける そのような
また このように 自らにも姿を与える
見失いつつ 与え続け 涠と化す・
動きがある

(通路γ)

お、通路一員。やあ、おおーと叫びながら
おーおーとおだやかに歩く。おおーと叫び
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫び
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫び
おおーと叫びながら歩く。

おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。

おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。
おおーと叫びながら歩く。おおーと叫びながら歩く。

1984.11.29

通路一

通路としての部屋・・・

通路？ 何処から何処への？

一つの現実から 一つの現実への・・・ そう 横軸に
現実から虚構への 或いは 虚構から現実への 縦軸に
そして

そして？

そしてもう一つは それら現実や虚構の平面から垂直に
垂直に その部屋を刺し貫いて 一つの通路が隠されて
いる

通路？ それは通路なのかしら・・・

何処からの？ 何処へいく通路だというの？

何処からも また何処へもいくことはないだろう その
通路は・・・

何処からでもなく 何処へもいかず・・・

それでもそれを 通路と言えて？

(「何処か」から 「何処か」へと向かう そのような
通路ではなく 通路そのもの と言えるような
ひとつの 「あわい」 ・・・ 隙間)

1981.11.14

一

トマト、高麗菜アヒチ等

トマト、高麗菜の水耕栽培実験

水耕栽培トマト、高麗菜の栽培実験
は、水耕栽培の水耕栽培、水耕栽培の水耕栽培

アヒチ

トマト、高麗菜の水耕栽培

水耕栽培トマト、高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、
水耕栽培高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、水耕栽培高麗菜

トマト、高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、水耕栽培高麗菜

トマト、高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、水耕栽培高麗菜

トマト、高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、水耕栽培高麗菜

トマト、高麗菜の栽培実験、水耕栽培トマト、
水耕栽培高麗菜、水耕栽培トマト、水耕栽培高麗菜

トマト、高麗菜

トマト

トマト、高麗菜

RECORDING MEMO

トマト、高麗菜の栽培実験

トマト、高麗菜の栽培実験

トマト

トマト、高麗菜

トマト、高麗菜の栽培実験

トマト、高麗菜

トマト、高麗菜

RECORDING NUMBER:

RECORDING NO.1 - Veil -

1982.6 ~ 未完

(冊子)

R.2 - CODA n -

1983.3

(冊子)

R.3 - RECORDING NO.3 -

1983.9.20 ~ 9.25 (木屋町画廊)

- R.3 File -

R.4 - QUARTER-FINAL -

1984.3.1 ~ 3.11 (京都市美術館202号室)

- R.4 File -

(nh.1 - THE COURT -
1983.3.3 ~ 3.13 (京都市美術館210号室)
BY HIROKO NAKATUKA GO HAYASHI)

RECORDER:

KOSUGI MIHOKO AND ANDO YASUHIKO

DATE・PLACE:

Piece I 『痕跡』

—思い出すこと 或いは 忘れること—

(京都市美術館202号室“アンデパンダン展”

／1985.3.1～3.10)

Piece II 『部屋』

—語りゆくこと 或いは 沈黙—

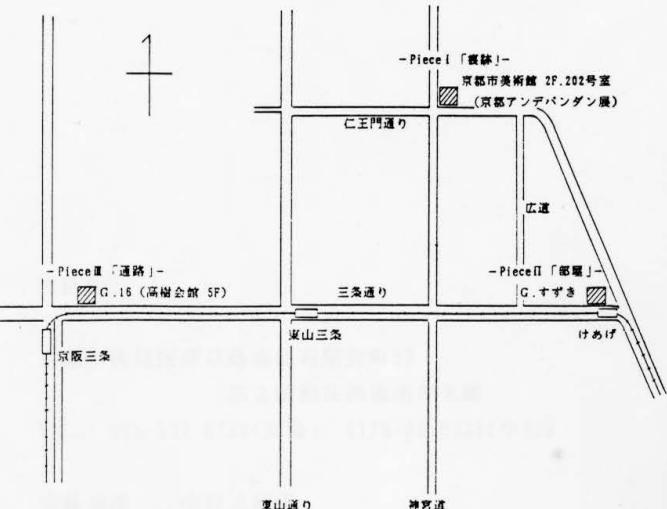
(ギャラリーすずき／1985.3.5～3.10)

Piece III 『通路』

—書くこと 或いは 消えゆくこと—

(galerie 16 /1985.3.5～3.10)

MAP:





「ふるさと」の文化をめぐらす
「ふるさと」の文化をめぐらす

「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす
「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす

「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす
「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす

「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす
「ふるさと」で「ふるさと」の文化をめぐらす

連絡先:

京都市伏見区深草藤森仙石屋敷町59
第2昭和荘西棟南の2階
TEL. 075-331-8722(安藤) 0775-22-6338(小杉)

安藤泰彦 小杉美穂子